

令和5年11月22日
(2023年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第一中学校
校長 平山 ちさと

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

○国語

【知識及び技能】及び【思考力・判断力・表現力等】において、全体的に全国平均を上回っている。また、無回答率は、全国平均をすべての項目で下回っており、学習に対して意欲的な姿勢が結果に表れている。



【知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項について、概ねできている。特に「文脈に即して漢字を正しく書く」については、全国的に解答しにくい設問であったが、適切に答えることができていた。
- (2) 情報の扱い方に関する事項について、概ねできているが、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解する」については、やや苦戦したようである。
- (3) 我が国の言語文化に関する事項について、概ねできている。

【思考力・判断力・表現力等】

- (1) 話すこと・聞くことについては、概ねできている。
- (2) 書くことについては、概ねできている。
- (3) 読むことについては、概ねできている。

●国語における成果と今後の改善点について

全体として、これまでの学習の成果が表れた結果となっている。特に、語句についての理解や、漢字の書き取りなどの問題についての正答率が高く、語彙力が培われた結果として、全国的に解答しにくい短答式や記述式の問題にも、しっかり答えることができていた。

○数学

【知識及び技能】及び【思考力・判断力・表現力等】において、全体的に全国平均を上回っている。また、無回答率は、全国平均をほとんどの項目で下回っており、学習に対して意欲的な姿勢が結果に表れている。



【各領域】

- (数と式) 概ねできている。計算や基礎知識を問う問題については、相当数の生徒が理解できており、計算力や基礎知識が定着していることがうかがえる。
- (図形) 概ねできている。特に、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」については、全国的に解答しにくい設問であったが、しっかりと証明することができていた。
- (関数) 概ねできている。特に「反比例の意味を理解している」については、全国的に解答しにくい設問であったが、しっかりと答えることができていた。
- (データの活用) 概ねできているが、「累積度数の意味を理解している」については、全国平均と同程度であった。

●数学における成果と今後の改善点について

全体として、これまでの学習の成果が表れた結果となっている。計算や基礎知識の正答率が高く、基礎的な力が定着している。また、全国的に解答しにくい記述式の問題にもしっかりと答えられていることから、基礎を活かして応用することもできていると捉えることができる。全体の結果から比較し、データの活用は苦手としているので、中学1年の範囲である度数分布表やヒストグラム、データと確率の復習も必要である。

○英語

【知識及び技能】及び【思考力・判断力・表現力等】において、全体的に全国平均を上回っている。また、無回答率は、全国平均をすべての項目で下回っており、学習に対して意欲的な姿勢が結果に表れている。



【各領域】

- (聞くこと) 概ねできている。「情報を正確に聞き取る」については、相当数の生徒が理解できており、英語を聞き取る力が定着していることがうかがえる。
- (読むこと) 概ねできている。特に「日常的な話題について、自分のおかれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る」については、全国的に解答しにくい設問であったが、しっかりと答えることができていた。
- (書くこと) 概ねできている。全般を通して、全国的に無回答率が高く、解答しにくい設問であったが、本校では無回答率も低く、しっかりと答えることができていた。

●英語における成果と今後の改善点について

全体として、これまでの学習の成果が表れた結果となっている。情報を正確に聞き取ることが出来ており、基礎的な力が定着している。また、全国的に解答しにくい短答式や記述式の問題にもしっかり答えることが出来ていることから、基礎を活かして応用することも出来ていると捉えることができる。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向



○学習・生活環境調査

- ①全国値と同じく、本校でも朝食をとっている生徒、同じ時刻に起床し、同じ時刻に就寝している生徒が多い。
- ②「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が全国平均を上回っており、学校に自分の居場所があると実感している生徒が多く、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」についての肯定的な回答も、全国値を上回っている。
- ③「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答がいずれも90%以上あり、他者を思いやる生徒が多い。
- ④「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）や土曜日と日曜日、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」について、勉強時間が全国値を上回っており、家庭や塾などでの学習が充実していると思われる。
- ⑤「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」では、肯定的な回答が全国値を上回っていたが、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」では、肯定的な回答が全国値を下回っていた。このことから、身の回りに本がある環境が整っているが、本を読む習慣が身につけていない。または、本を読む時間がないと思われる。
- ⑥「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」について、肯定的な回答が全国値を上回っている。
- ⑦「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしているか」について、肯定的な回答が全国値を上回っている。
- ⑧「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」について、肯定的な回答が全国値を上回っており、ICTの活用効果を確認することができた。

3 今後の取り組み

本校では、これまで「主体的、対話的で深い学び」に向けた「学び合いの授業（協働学習）」を進めており、昨年度から未来を見据えて学校教育目標を「学び合い、支え合い、高め合う中で、よりよい自分を見つけることができる生徒を育成する」、「人権尊重の精神を基盤として、社会とのつながり、その発展に寄与する生徒を育成する」へと改めました。また、GIGA スクール構想に基づいて SUN ネット端末の効果的な活用に努めています。

今回の調査では、学習・生活環境調査⑥、⑦の結果より、「主体的、対話的で深い学び」に向けた「学び合いの授業（協働学習）」が効果的に進めることができていることが確認できました。また、学習・生活環境調査⑧の結果より、ICT の活用が効果的に進んでいることを確認することができました。

次に、学習・生活環境調査②の結果について、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」についての肯定的な回答は、全国値を大きく上回っているものの、2割程度の否定的な回答があることから、相談窓口の周知や安心感を得られることができるよう信頼関係の構築に努めていきます。

今後も、「学び合い、支え合い、高め合う中で、よりよい自分を見つけることができる生徒を育成する」、「人権尊重の精神を基盤として、社会とのつながり、その発展に寄与する生徒を育成する」という教育目標のもと、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を実現していくために、研究を進めてまいります。

